

授業概要

絵巻『長谷雄卿草紙』を絵画部分と詞書の部分との対応を考えつつ読んでいく。最初にこちらから、発表の仕方、発表のための準備の方法などを説明し、その後、各自の発表により授業を進めることとする。最終的には、古典の基礎知識や古典文法の習得をも目指すこととしたい。

授業計画

第1回	導入	第16回	導入
第2回	変体仮名について①	第17回	調べ方③
第3回	変体仮名について②	第18回	調べ方④
第4回	調べ方①	第19回	資料の作り方②
第5回	調べ方②	第20回	発表⑩
第6回	資料の作り方	第21回	発表⑪
第7回	発表①	第22回	発表⑫
第8回	発表②	第23回	発表⑬
第9回	発表③	第24回	発表⑭
第10回	発表④	第25回	発表⑮
第11回	発表⑤	第26回	卒論への取組について①
第12回	発表⑥	第27回	卒論への取組について②
第13回	発表⑦	第28回	発表⑯
第14回	発表⑧	第29回	発表⑰
第15回	発表⑨	第30回	発表⑱
		第31回	定期試験

到達目標

日本古典文学について、自分で調べて発表資料を作成するという作業を身につけてもらいたいと考えている。最終的には、古典の基礎知識や古典文法の習得を目指す。④年時には、卒業論文中間発表会、卒業論文発表会等で全員発表してもらう。

履修上の注意

「日本文学入門」、「日本文学史概論（古典）」、「日本文学特論（古典）」等を既に履修しているか、あわせ受講することを推奨する。

予習・復習

発表の担当になった時には約2週間前から準備をお願いします。

評価方法

ほぼ、発表内容・定期試験（50%）、授業態度、各行事参加状況（50%）の割合で、総合して判断する。

テキスト

授業中に指定する。

授業概要

今年度のテーマは、18・19世紀の英領西インド諸島のプランテーション奴隷制の歴史ならびに奴隷の人口の問題です。このテーマは、ここ30年来西半球の歴史研究の世界で最も注目されているものの一つです。それは、第1に欧米社会史研究において最も注目されている分野だから。第2にアフリカ人奴隷制とレイシズム、そしてその根底にある性差別という欧米では非常にデリケートな問題に、正面からチャレンジする学際的試みだからです。まず予備知識の拡充に努めてもらい、この分野の古典的文献を輪読し様々議論し合います。そして奴隷の生死に関する史料を吟味し、各自の問題点を掘り下げてゆきます。原史料から歴史を探る楽しみとともに、人類の歩みの厳粛さを感じてもらうことが目標です。

授業計画

第1回	春期概要説明：テキスト講読の目的・狙い	第16回	春期成果の確認 秋期授業概要説明
第2回	準備的考察①：歴史人口学と家族史研究	第17回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱ内容概略紹介
第3回	準備的考察②：「新大陸」とヨーロッパ	第18回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む①
第4回	準備的考察③：大西洋奴隷貿易と西インド	第19回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む②
第5回	準備的考察④：「ウィリアムズ・テーゼ」	第20回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む③
第6回	まとめ：黒人奴隷の人口と家族	第21回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む④
第7回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む①	第22回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑤
第8回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む②	第23回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑥
第9回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む③	第24回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑦
第10回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む④	第25回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑧
第11回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑤	第26回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰ・Ⅱについての総括的討論 各自論点の開示と相互吟味
第12回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑥	第27回	原史料吟味①：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第13回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑦	第28回	原史料吟味②：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第14回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑧	第29回	原史料吟味③：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第15回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究テーマの開示と課題小論文の指定	第30回	今年度演習の総括 研究の成果と課題について 各自テーマの開示

到達目標

- ・ 4年次卒業論文執筆準備として調査、データの作成と整理、文献批判・論文構想・小論文作成のためのスキル養成をします
- ・ 海外の時代も文化的背景も全く異なる人類同胞の経験を読み解き、地球的視野を獲得します
- ・ プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います
- ・ 自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見をより良く鍛える力を獲得します

履修上の注意

- ・ 「西洋史入門」や「西洋史概説」、「西洋史資料講読」の受講を推奨します。ただしこれらを受講していない諸君も歓迎します。その際には、必要知識を個別に指導しますので、遠慮なく申し出てください
- ・ やむを得ない欠席や遅刻、早退は、事前に指導教員だけでなくメンバー皆に通知し、了解を取らなければいけません。

予習・復習

演習は、全員が力を合わせ、心を一にして初めて成り立つ授業です。そのためにはプレゼンター（1名指定）だけでなく、司会（1名指定）、コメンテーター（1～2名指定）その他のメンバーも、事前に時間を十分にかけ、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターは報告1週間前までにレジュメ（発表骨子）を作成、指導を受けた上で皆に提示します。司会、コメンテーターその他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう、準備してください。

評価方法

レジュメ並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを、各回審査し、総合的に評価します。

テキスト

E.ウィリアムズ著 川北稔訳『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492—1969——』Ⅰ・Ⅱ巻（岩波書店）。なおイギリスで収集してきた原史料をはじめ、その他必要な文献資料はそのつど授業内で配布する。

授業概要

英語圏(や日本語圏)の子供がどのようにして母語を習得するのかという問題を扱う。はじめは 1 語と意味を結びつけて意思を伝えていた幼児が、生後 18 か月頃から 2 語以上からなる発話を産出できるようになる。2 語発話と意味が結びつく場合、特定の結び付け方にしかならならず、しかもそれは教わらなくとも出て来る。Mommy(ママ)と sock(靴下)の関係でいえば Mommy' s sock か Mommy' s putting on sock か Mommy' s putting sock on me 以外は殆どない。語用論の力が働くので場面から意味は容易に分る。3 歳を過ぎる頃 What' s that? だけでなく What do you think Cookie Monster eat? の様な複雑な疑問文も作れるようになる。どうやって Mommy sock の様な単純な子供の文法から複雑な大人の文法へと移行するのか? Progovac (2015) は cry-baby の様な複合語に幼児の 2 語期の「化石」が残存し、統語論がどう「進化」したかの手がかりがあると論じている(Kajita (2004)の「残存構造」も参照)。

授業計画

第 1 回	Introduction	第 16 回	Evolutionary Syntax (5)
第 2 回	The Syntax of Nonsententials (1)	第 17 回	Why Only Us? (1)
第 3 回	The Syntax of Nonsententials (2)	第 18 回	Why Only Us? (2)
第 4 回	The Syntax of Nonsententials (3)	第 19 回	Why Only Us? (3)
第 5 回	The Syntax of Nonsententials (4)	第 20 回	Constructing a Language (1)
第 6 回	The Syntax of Nonsententials (5)	第 21 回	Constructing a Language (2)
第 7 回	Words and Thoughts (1)	第 22 回	Constructing a Language (3)
第 8 回	Words and Thoughts (2)	第 23 回	Constructing a Language (4)
第 9 回	Words and Thoughts (3)	第 24 回	Constructing a Language (5)
第 10 回	Words and Thoughts (4)	第 25 回	Linguistic Typology of Templates(1)
第 11 回	Words and Thoughts (5)	第 26 回	Linguistic Typology of Templates(2)
第 12 回	Evolutionary Syntax (1)	第 27 回	Contiguity Theory (1)
第 13 回	Evolutionary Syntax (2)	第 28 回	Contiguity Theory (2)
第 14 回	Evolutionary Syntax (3)	第 29 回	Contiguity Theory (3)
第 15 回	Evolutionary Syntax (4)	第 30 回	Contiguity Theory (4)
		第 31 回	筆記試験

到達目標

論文や文献を読み、概要を作り、そこで取り上げられている問題について議論する。他の論文で同じ問題を取り上げながら、異なる答を主張しているものはないかにも注意する。疑問点を出発点として、同じ現象を取り上げて、再分析を行い、新たな答を見つける。

履修上の注意

積み重ねが大事ですから、休まないようにしてください。またノートを毎回きちんとってください。わからないことがあったら、どんどん質問して疑問を解消してください。

予習・復習

できれば分担表を作って、一緒に論文を読んでゆきたいと思います。背景知識となることを辞典、事典などであらかじめ調査してもらったり、現象について内省、コーパス調査、(思考)実験などをするようになると思います。毎回、配布された資料や、自分でとったノートを見て復習をし、知識の整理をしておいてください。

評価方法

出席点、ゼミへの参加度、提出物、筆記試験などを総合的にみて評価する。

テキスト

印刷教材を配布します。参考文献は適宜紹介します。とりあえず、次の文献を挙げておきます。
Richards (2016) Contiguity Theory, The MIT Press. Heim and Kratzer (1998) Semantics in Generative Grammar, Blackwell.

授業概要

この授業は、中国古典文学、日本漢文学や日本古典文学を専門範囲とする演習科目です。特定のテキストを指定せず、履修者と相談したうえ、その選択したテーマに合わせて、関係資料や先行論文を読み、検討を重ねていきます。そして、そうした検討の結果をまとめるレポートにより評価します。

授業計画

第1回	履修者と演習内容について相談	第16回	概説：上代日本の文化と文学
第2回	中国文学・文化史概説	第17回	文化の交流と漢字の伝来
第3回	先秦時代の文学・文化	第18回	文化の選択と漢字の定着
第4回	漢代時代の文学・文化	第19回	日本漢詩の興隆
第5回	魏晋時代の文学・文化	第20回	上代日本漢詩を読む・大津皇子
第6回	六朝時代の文学・文化	第21回	上代日本漢詩を読む・釈智蔵
第7回	隋唐時代の文学・文化	第22回	上代日本漢詩を読む・藤原不比等
第8回	唐代の詩を読む・王勃	第23回	上代日本漢詩を読む・文武天皇
第9回	唐代の詩を読む・駱賓王	第24回	上代日本漢詩を読む・長屋王
第10回	唐代の詩を読む・宋之問	第25回	概説：詩と歌
第11回	唐代の詩を読む・孟浩然	第26回	万葉仮名と万葉集歌
第12回	唐代の詩を読む・李白	第27回	万葉集中の儀礼歌
第13回	唐代の詩を読む・杜甫	第28回	万葉集中の歌人・柿本人麻呂
第14回	唐代の小説を概する	第29回	万葉集中の和漢混交歌群
第15回	唐代の小説・遊仙窟を読む	第30回	復習とまとめ
		第31回	期末テスト

到達目標

履修者の興味ある分野についての基礎知識の取得と基本文献の読解力を身につけること。

履修上の注意

履修者が積極的に授業に参加することが必要である。

予習復習

特に演習の担当者が資料を調査予習することが不可欠である。

評価方法

授業の参加度30%と期末レポート70%により総合的に評価する。

テキスト

適宜にプリントを配って使う。

授業概要

カルチュラル・スタディーズ 映像社会と現代文化の解読

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる現在の諸問題を考察することで、現代文化の理解を目標とする。カウンセリングブーム、うつ病の流行、携帯電話、携帯小説、性同一性障害、児童虐待、モンスター、怪獣、ホラー映画、少年犯罪、多重人格、身体障害、テロリズム、ファッション、ディズニーランド、アニメーション、オタクなど、現代社会を表象するテーマを、映画等の映像テキストを分析することで、議論してゆきたい。

授業計画

第1回	自己紹介 ゼミの方針	第16回	ジブリ映画論(1)
第2回	カルチュラル・スタディーズとは	第17回	ジブリ映画論(2)
第3回	更新される映画 アダプテーション論	第18回	『エヴァンゲリオン』と苦悩の若者たち
第4回	ディズニーランドの文化史	第19回	新海誠論—アニメ文化のゆくえ
第5回	クトゥルフ神話の文化史	第20回	日本の古典的怪談文化
第6回	H・P・ラヴクラフト論	第21回	『リング』とJホラーの文化論
第7回	文学・映画における恐竜	第22回	日本における古典的妖怪文化
第8回	キングコングと猿の文化史	第23回	『妖怪ウォッチ』と現代日本
第9回	映画における原子力発電所	第24回	同性愛映画の文化論
第10回	原爆映画史—放射能の怪物たち	第25回	BL小説の文化論
第11回	レポート発表会	第26回	ライトノベル文化論(1)
第12回	ゴジラシリーズと昭和/平成の時代文化	第27回	ライトノベル文化論(2)
第13回	『シン・ゴジラ』とゴジラの変貌	第28回	同時多発テロの映画的側面
第14回	怪獣文化のゆくえ—『ポケモン』文化論	第29回	テロリズム時代の恐怖文化
第15回	日本アニメの歴史	第30回	スティーヴン・キング『IT』論
		第31回	まとめ ディベート

到達目標

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。現代思想を把握することで、映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる諸問題を考察し、現代文化の理解を目標とする。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。大量の資料を配布するのでファイルを持参。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート(60%)、提出物およびコメントペーパー(40%)などの総合評価。

テキスト

プリントなどの配布資料 また参考文献については適宜指定する。

授業概要

本演習は、主として日本の近現代史（幕末・明治維新时期～現代）の分野から卒業論文のテーマを設定しようとしている学生を対象とする。夏休みに入るまでに、おおよその卒論テーマを決めてもらうことになる。

春期の授業では、論文の書き方や文献・史料の集め方などの説明を行うとともに、指定したテキストを使って発表と質疑応答を行いながら内容を検討していく。

秋期の授業では、テキストの講読と併行して、各人が設定したテーマについての研究報告（先行研究や文献・史料の紹介、問題の設定など）を行う。受講生全員とのディスカッションを通じて、論文の中身を練ることに努める。

4 年次における卒論作成に向けて、日本近現代史の知識を養いつつ、論文作成法を身につけられるようキメ 細かく指導する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	論文の準備・作成方法について	第 17 回	卒論構想についての 1 回目研究報告①
第 3 回	文献・史料の収集について	第 18 回	卒論構想についての 1 回目研究報告②
第 4 回	テキストの講読①	第 19 回	卒論構想についての 1 回目研究報告③
第 5 回	テキストの講読②	第 20 回	卒論構想についての 1 回目研究報告④
第 6 回	テキストの講読③	第 21 回	卒論構想についての 1 回目研究報告⑤
第 7 回	テキストの講読④	第 22 回	テキストの講読⑪
第 8 回	テキストの講読⑤	第 23 回	テキストの講読⑫
第 9 回	テキストの講読⑥	第 24 回	テキストの講読⑬
第 10 回	テキストの講読⑦	第 25 回	卒論構想についての 2 回目研究報告①
第 11 回	テキストの講読⑧	第 26 回	卒論構想についての 2 回目研究報告②
第 12 回	テキストの講読⑨	第 27 回	卒論構想についての 2 回目研究報告③
第 13 回	テキストの講読⑩	第 28 回	卒論構想についての 2 回目研究報告④
第 14 回	各自の設定テーマの報告	第 29 回	卒論構想についての 2 回目研究報告⑤
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

- ① できるだけ早めに卒論で書こうとするテーマをしぼっていく。
- ② テーマに関連する文献や史料を収集できるようにする。
- ③ 文献・史料を読み、内容を理解できるようにする。

履修上の注意

- ① 日本史、特に近現代史に興味を持ち、その分野から卒論のテーマを設定する予定の者が受講することを期待する。
- ② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- ② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

『大学の日本史 教養から考える歴史へ ④ 近代』小風秀雅編、山川出版社

授業概要

日本史や日本文化に関連するテーマで卒業論文を書きたいと思っている諸君を対象に、そのための基礎力を身に付けることを目指す。卒業論文を書くには、題材を見つけ、研究の流れを追い、参考文献を読み、史料を調べ、途中経過を報告し、ふさわしい文体・ことばで書くなど、さまざまなテクニックが必要だが、それらについて指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方など）	第16回	テーマ（題材）を見つける
第2回	通時代的な基礎知識	第17回	研究史の流れをつかむ
第3回	古代史の基礎知識① 6世紀以前	第18回	参考文献や先行業績を捜す
第4回	古代史の基礎知識② 7・8世紀	第19回	参考文献や先行業績を読む
第5回	古代史の基礎知識③ 9・10世紀	第20回	原典史料を調べる① 史料を捜す
第6回	古代史の基礎知識④ 11世紀	第21回	原典史料を調べる② 本文を読む
第7回	中世史の基礎知識① 12世紀	第22回	原典史料を調べる③ 史料批判をする
第8回	中世史の基礎知識② 13世紀	第23回	文章にまとめる① 構想をたてる
第9回	中世史の基礎知識③ 14世紀	第24回	文章にまとめる② 下書きをする
第10回	中世史の基礎知識④ 15世紀	第25回	文章にまとめる③ 推敲して仕上げる
第11回	近世史の基礎知識① 15・16世紀	第26回	全員が1回ずつ口頭発表する①
第12回	近世史の基礎知識② 16・17世紀	第27回	全員が1回ずつ口頭発表する②
第13回	近世史の基礎知識③ 17・18世紀	第28回	全員が1回ずつ口頭発表する③
第14回	近世史の基礎知識④ 18・19世紀	第29回	全員が1回ずつ口頭発表する④
第15回	周辺の学問分野や補助学の概要	第30回	全員が1回ずつ口頭発表する⑤
試験	定期試験期間中に筆記試験を実施	試験	定期試験期間中に筆記試験を実施

到達目標

自身の力で吉川弘文館版『国史大辞典』の説明を読めるようになること。これは、日本史や日本文化に関するテーマで論文を書こうとする際の、スタートラインにつくことを意味する。

履修上の注意

- * 高校日本史程度の基礎知識は、各自の努力によって身に付けておいてもらいたい。
- * なるべく幅広い興味をもち、自力で調べようとする態度を求める。辞書や事典類を引くことを面倒がってはならない。また、積極的に発言するように。
- * 遅刻や欠席の扱いについては、下の「評価方法」の欄を見ること。

予習・復習

- 【予習】 毎回、次の回までの課題を指示するので、教科書（日本史辞典）等を使って調べておく。
- 【復習】 時間中に獲た知識を整理し、教科書等を使って関連事項を補充・補足するよう努める。

評価方法

期末ごとに筆記試験を行なって評価する。通年科目だけれども、春期末にも試験を実施することに注意。また演習科目であるから、受講態度を重視する。

配点比率：春期末試験得点 40%、秋期末試験 40%、受講態度 20%

テキスト

- * 教科書：『角川新版日本史辞典』 朝尾直弘ほか編（最新版、角川学芸出版、2007年）
（注意）毎回持参すること。
- * 必要に応じてプリントを配付する。

授業概要

明治から現代まで日本語で書かれた言語による表現を対象に卒業論文を書きたい人のための演習です。基本的には日本の近代小説を扱います。

さまざまな文章を大量に読み、調べ、考え、それによって、「感想」ではない「論」を作り上げることができるようになります。また発表者としては、自らの考えを分かりやすく人に伝えることができるように努め、聞き手としては人の発表をどのように聞き、どのような意見や質問を出せば良いかを考えます。互いに主体的に参加し、生産的な意見交換が出来るよう指導します。

またグループワークを行い、調査の方法や、資料の使い方なども学び、卒業論文に備えます。

授業計画

学外での実習を行う可能性がある。

第 1 回	ガイダンス・授業内容確認	第 16 回	前期レポートの講評
第 2 回	資料調査の方法について	第 17 回	前期レポートの相互批評①
第 3 回	発表の方法について	第 18 回	前期レポートの相互批評②
第 4 回	受講者による発表①	第 19 回	受講者による発表①
第 5 回	受講者による発表②	第 20 回	受講者による発表②
第 6 回	受講者による発表③	第 21 回	受講者による発表③
第 7 回	発表についての補足①	第 22 回	発表についての補足①
第 8 回	発表についての補足②	第 23 回	発表についての補足②
第 9 回	受講者による発表④	第 24 回	受講者による発表④
第 10 回	受講者による発表⑤	第 25 回	受講者による発表⑤
第 11 回	受講者による発表⑥	第 26 回	受講者による発表⑥
第 12 回	発表についての補足③	第 27 回	発表についての補足③
第 13 回	発表についての補足④	第 28 回	発表についての補足④
第 14 回	前期の振り返り	第 29 回	後期の振り返り
第 15 回	レポート作成について	第 30 回	レポート作成について
		第 31 回	卒論発表会への参加

到達目標

- ①日本の言語表現について自分なりの視点を持ち、それを言語化して考察することができるようになる。
- ②他者との討議によって、互いの立場を理解しながらお互いの考察を深め合うことができるようになる。
- ③大学において日本近代文学を専攻したと、自信をもって言えるようになる。

履修上の注意

遅刻欠席をしないこと。

作品を読んでもくることは当然として、主体的、積極的な態度で臨むこと。

発言を求められたら、必ず発言すること。

学外での授業を行う可能性がある。

その他のルールは授業内で示す。

予習復習

【予習】決められた作品を読み、意見を考えておくこと。

【復習】授業を踏まえ、作品を読み直すこと。

評価方法

発表・レポート・授業への参加態度をあわせて総合的に評価する。

テキスト

1 回目の授業で話し合って決める。

授業概要

今や国際語である英語の歴史は波乱万丈ともいってもよいだろう。そもそも英語はイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言語だった。英語は5世紀に彼らがブリテン島に侵出して生を受けて以来、フランスの一地方の領主が1066年イギリスを武力制圧した大事件など数々の外圧の影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった。その歴史的過程を考察すると、英語の現在の姿が見えてくる。

英語を学んでいると、様々な疑問が浮かぶことがある。英単語の綴り字はなぜ発音通り書かれず不規則なのだろうか。複数形は単数形にsをつける(例えばbooks)はずなのに、なぜchildの複数形はchildrenなのだろうか。このような疑問は英語を歴史的に考察すれば自ずと解けていく。この演習では、英語を過去から歴史的に分析し、現在の英語をさらに深く理解するとともに、英語学のものの見方を身につけていく。

授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	ノルマン・コンクエスト
第2回	古英語から近代英語まで(1) 概観	第17回	中英語の主な特徴(1) 一般的特徴
第3回	古英語から近代英語まで(2) 練習問題	第18回	中英語の主な特徴(2) 仏語の借用語
第4回	イギリスの4つの地域	第19回	中英語の主な特徴(3) 借用語の年代と量
第5回	ケルト人、ローマ人の英国侵略	第20回	近代英語期：標準語の成立
第6回	ケルト語、ラテン語の影響	第21回	近代英語期：大母音推移
第7回	アングロ・サクソン人の英国侵略	第22回	ルネサンスが与えた英語への影響
第8回	アングロ・サクソン人の文明	第23回	宗教改革が与えた英語への影響
第9回	古英語の主な特徴(1) 名詞を中心に	第24回	シェイクスピアの英語の特徴
第10回	古英語の主な特徴(2) 動詞を中心に	第25回	綴り字問題
第11回	古英語の主な特徴(3) 語順と語彙	第26回	規範文法の成立
第12回	ヴァイキングの英国侵略	第27回	アメリカ英語
第13回	北欧語の影響(1) 本来語と借用語	第28回	英語の辞書
第14回	北欧語の影響(2) 北欧語の借用語	第29回	語源
第15回	春期の総まとめ	第30回	秋期の総まとめ

到達目標

古英語、中英語、近代英語それぞれの特徴を把握して英語の歴史全体を理解するとともに、英語学の基礎を学び、卒業論文を書くための土台となる力を身につけることを到達目標とする。

履修上の注意

この演習は英語の「歴史」を扱うため、英語が苦手な方でも、英語の歴史に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等はほとんど日本語で書かれたものを使用する。専門科目の「英語史」の講義を受講する必要はない。

予習・復習

授業の内容の深い理解のために、毎回テキストを読んで授業に望み、その後しっかりと復習することが望ましい。

評価方法

授業内での発表(春期・秋期各一回)、レポート(春期・秋期各一回)を重視し、さらに学習に対する姿勢も考慮に入れて、総合的に評価する。

テキスト

渡部昇一『英語の歴史』大修館書店(スタンダード英語講座3)。適時、プリントを配布する。

授業概要

社会心理学・パーソナリティ心理学に関わる研究テーマで卒業論文を執筆することを希望する学生を中心に、論文執筆に必要となる力（文献講読力・実験の実行に関わる能力）の修得を指導する。

春期は先行研究の講読と発表を題材に、心理学研究に必要な事柄が理解できるよう指導する。秋期は春期で学習した内容をふまえて先行研究の追試を実施し、論文作成法を指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	春期末レポートの返却 ／追試を行う先行研究の決定
第2回	発表順、発表担当文献の決定	以降の授業計画は、受講学生の人数・追試に選んだ文献の内容により、一部変更の可能性はある。	
第3回	心理学の多様な研究手法 (心理学研究法Ⅰ・Ⅱの復習)	第17回～第20回	計画立案(要因整理、教示文の確認、等)
第4回	レジュメの作成方法について ／発表に関するポイントの確認	第21回～第23回	データ収集の実施／データ整理
第5回～第13回	各自の担当文献の発表と、質疑応答 ※受講学生の人数により1人当たりの発表回数は変動する。 ※発表以外に適宜、データ収集方法や分析結果の表現方法についての指導が入る。	第24回～第26回	データ分析／追加データの収集
第14回	春期のまとめ(1) 論文の講読ポイント	第27回～第28回	分析結果に基づく論文(演習論文)の構成案作成および執筆
第15回	春期のまとめ(2) 追試対象論文の提案	第29回	追試まとめ／卒業論文への橋渡し
		第30回	定期レポート(演習論文)の提出

到達目標

社会心理学・パーソナリティ心理学分野の卒業論文を執筆するために必要な力（文献講読力・実験の実行に関わる能力）が修得でき、関心のあるテーマについての研究計画が自分で立てられるようになる。

履修上の注意

- 心理学領域のゼミを選択する際の履修推奨科目のうち、「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「心理学統計法Ⅰ」、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「心理学実験Ⅰ」の未履修・不合格者は3年次において履修(再履修)することを原則とする。ただし、平成30年度の開講科目は人間文化学科専門科目と心理学科専門科目が混在する期間になる関係で、科目の対応関係についてはゼミ担当教員に確認をすること。
- 2年次で「心理学実験Ⅰ」に合格している学生は、3年次に「心理学実験Ⅱ」を履修すること。
- 原則として3年次に「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」か「フィールドワークⅠ・Ⅱ」のどちらかを履修すること。
- 3回の遅刻を欠席1回分と同等に扱うので注意してほしい。
- 秋期の追試実施の際に、学外で授業を行う(例:先行研究の文献を入手するために国立国会図書館に出向く)可能性もある。

予習・復習

春期) 自身の発表週はもちろんのこと、発表週以外であっても、各週で発表される文献を事前に通読しておく。

秋期) 演習時間外に作業をしなければならないことが数多くある。時間的労力がかかることを覚悟してほしい。

評価方法

授業への参加態度、発表時のレジュメ、発表の仕方、討議における発言、レポートの内容などをふまえ、総合的に評価する。

テキスト

レジュメを使って進行するため、テキストは指定しない。春期の発表文献(最近1年間の学術論文)は担当教員が適宜用意するので、そこから選択する。ただし、事前に希望があり教員の許可が得られれば自分で好きな文献を用意して発表に用いてもよい。

授業概要

教育現象を多面的に考えるゼミです。平成 29 年度は、教育の歴史について指導します。

具体的には、1950 年代の「非行少年」、大正時代の「モンスターピアレンツ」、1950 年代の「学力低下問題」、1980 年代以降の「受験の歴史」、「教師と生徒の恋愛」、1960 年代以降の「制服の歴史」、明治時代の「不登校」「ニート」といった内容を扱います。

春期は、演習担当者(布村)が話題提供をし、その内容についてゼミ生全員で議論をします。また、教育に関する新聞記事を各自で用意してもらい、それについての意見を発表する時間を設けます。秋期には、春期で蓄積した知識と技能を活用し、各ゼミ生が自分の興味ある事柄や卒業論文に書きたい内容についてレジュメを作成し、それについて発表し議論をします。

授業計画

第 1 回	春期演習の運営上の説明	第 16 回	秋期演習の運営上の説明
第 2 回	教育の歴史のとらえ方	第 17 回	学校制度の歴史
第 3 回	1950 年代の非行少年	第 18 回	教師教育の歴史
第 4 回	1950 年代の学力低下問題	第 19 回	生徒指導の歴史(いじめ、不登校)
第 5 回	1960 年代以降の制服の歴史	第 20 回	学級経営・学校経営の歴史(体罰)
第 6 回	1960 年代以降の子どもの自殺	第 21 回	発表レジュメの書き方
第 7 回	各ゼミ生の発表	第 22 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 8 回	大正時代のモンスターピアレンツ	第 23 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 9 回	受験の歴史	第 24 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 10 回	教師と生徒の恋愛	第 25 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 11 回	明治時代の不登校	第 26 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 12 回	明治時代の不登校	第 27 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 13 回	教育改革の歴史	第 28 回	各ゼミ生の発表の総括
第 14 回	各ゼミ生の発表	第 29 回	今後の教育に関する議論
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

教育を考える時には、学校、教室、先生と生徒の対一対一というミクロな視点からではなく、政治・経済との関係や、歴史との関係といった、マクロな視点から考えられるような姿勢を身に付けてほしいと思っています。

履修上の注意

小学校、中学校、高等学校の教員になろうと強く考えている人の履修を望みます。「書くこと」「読むこと」「議論すること」が中心となるゼミです。

予習・復習

予習：テキストの指定範囲は必ず読んでくること。

ゼミの時間に配布する資料に必ず目を通してくること。

復習：学習した内容を定着するために課題を出します。課題は次週に必ず提出すること。

評価方法

テストは行いません。提出物の内容・演習への参加態度・発表内容を中心に評価を行います。

また、演習担当者からの連絡を無視する、ゼミの他のメンバーに不快な思いをさせる言動が著しい、といったような、ゼミ運営に支障をきたす態度についても、評価の対象とします。

テキスト

各回に、史料を配布します。参考文献は授業内に指示します。

授業概要

卒業研究の準備段階として、実証研究を行うための心理学文献検索の方法やレジメ作成の方法、発表、討論、レポート作成を通して実践的な心理学研究法のスキル習得を目指す。具体的には、臨床心理学領域および健康心理学領域の研究から受講者の関心に沿ってテーマを選び、関連する文献の精読と発表を行い、平行して課題に対する心理学理論と知識の習得・深化をはかる。

授業計画

第 1 回	全体ガイダンス：本演習の目的と進め方について解説する	第 16 回	前期レポートのフィードバックと秋期授業のガイダンスを行い、各自の研究課題を確認する。
第 2 回	受講者の研究テーマの確認	第 17 回	受講者の発表テーマの確認
第 3 回			
第 4 回	テーマ論文の検索と発表(1)	第 19 回	関連論文の査読と発表(1)
第 5 回	テーマ論文の検索と発表(2)	第 20 回	関連論文の査読と発表(2)
第 6 回	テーマ論文の検索と発表(3)	第 21 回	関連論文の査読と発表(3)
第 7 回	テーマ論文の検索と発表(4)	第 22 回	関連論文の査読と発表(4)
第 8 回	探索文献の発表と討議(1)	第 23 回	探索文献の発表と討議(1)
第 9 回	探索文献の発表と討議(2)	第 24 回	探索文献の発表と討議(2)
第 10 回	探索文献の発表と討議(3)	第 25 回	探索文献の発表と討議(3)
第 11 回	探索文献の発表と討議(4)	第 26 回	探索文献の発表と討議(4)
第 12 回	課題レポートの作成と発表(1)	第 27 回	課題レポートの作成と討議(1)
第 13 回	課題レポートの作成と発表(2)	第 28 回	課題レポートの作成と討議(2)
第 14 回	課題レポートの作成と発表(3)	第 29 回	課題レポートの作成と討議(3)
第 15 回	前期のまとめ(提出レポートの説明)	第 30 回	後期のまとめと卒業研究のガイダンス

到達目標

1. 自分の興味・関心に沿ったテーマについて、探索した文献を精読・発表し、その討論を踏まえてレポート論文にまとめ上げることができる。
2. 自分の興味・関心のあるテーマについて問題点あるいは課題を明確にして研究計画を立案できる。
3. 以上の課題を通して、①科学的な批判的思考、②論理的表現力の獲得を養う。

履修上の注意

1. 各自の関心に沿って関連文献を渉猟し、精読し、内容を理解した上でレジメを作成し、プレゼンテーションを行う。場合によっては、実際にデータを取り、それを分析・考察して、一定の結論を導き出すことが求められる。
2. 最終的にはレポートを作成・提出するため、授業以外の自主的学習が必要となる。なお、春期には各自の関心領域を明確化することが中心となり、秋期にはそれを受けて系統的な文献研究を行う。

予習復習

1. 文献発表に関連して、発表者は質問に答えられるように、不明な点、理解が低い学術用語を確認するなどの事前準備をしておくこと。
2. 発表時に回答できない課題は、宿題として持ち帰り、次回に再度の説明発表を行うことが求められる。

評価方法

自分の興味・関心に沿ったテーマについて研究計画を立案し、実施し、論文に完成できることを目標として、授業での発表、討論などの貢献度と期末に提出するレポートを総合的に判断し評価する。レポートの完成度が基準に達しない場合は再提出を課する。また、欠席数が3分の1以上の場合は、再履修あるいは追加課題を課す(授業への参加度50%、レポート50%)

テキスト

特に用意しない。必要に応じて資料等を配布する。

授業概要

心理学に関心があり、とくに臨床心理学や人間関係の心理に興味があり、その分野で卒業論文を執筆したいと考えている学生を対象として、人間関係や心のケアに関する体験的理解と研究方法を学ぶ。ボランティア活動を奨励します。大学外での様々なボランティア活動をゼミとしても行います。

授業計画

第1回	オリエンテーション（目的と方法）	第16回	オリエンテーション
第2回	心理学の分野と対象理解	第17回	ボランティア体験の発表（1）
第3回	各自の研究テーマを考える（1）	第18回	ボランティア体験の発表（2）
第4回	各自の研究テーマを考える（2）	第19回	研究テーマと研究方法の討議（1）
第5回	各自の研究テーマに関する文献を収集	第20回	研究テーマと研究方法の討議（2）
第6回	研究テーマの発表（1）	第21回	研究テーマと研究方法の討議（3）
第7回	研究テーマの発表（2）	第22回	予備調査の検討（1）
第8回	研究テーマの発表（3）	第23回	予備調査委の検討（2）
第9回	人間関係の心理学に関する文献購読（1）	第24回	研究資料の収集と分析（1）
第10回	人間関係の心理学に関する文献購読（2）	第25回	研究資料の収集と分析（2）
第11回	臨床心理学に関する文献購読（1）	第26回	研究成果の報告（1）
第12回	臨床心理学に関する文献購読（2）	第27回	研究成果の報告（2）
第13回	研究方法についての検討（1）	第28回	研究発表会に向けた資料作成
第14回	研究方法についての検討（2）	第29回	研究発表会
第15回	研究計画と方法の発表	第30回	研究発表会を終えて、今後に向けて
		第31回	研究レポート提出

到達目標

卒業研究に向けて準備する。研究テーマの選択、研究方法の検討、文献購読の方法、研究資料の作成、研究計画の作成、データの処理などを体系的に学び、理解する

履修上の注意

無断欠席しないこと。遅刻するときは、連絡するなど、発表のときに休まないなどゼミに対してきちんとした態度で臨むこと。

予習復習

文献購読、研究発表、事前・事後の学習は大切である。

評価方法

平常点（取組み姿勢）、レポートの提出など総合的に評価する

テキスト

必要に応じて資料を配布する 「人間関係がよくわかる心理学」を参考書として使用する

授業概要

前半は、心理学の論文やレポートを読み、各回で発表者をたて、発表してもらい、議論をする。これにより、実際の研究に触れ、研究の進め方を実感してもらう。もちろん、このことで新しい心理学における新しい知識も吸収する。

後半では、質問紙調査を作成し、調査を実施し、解析をし、結果を出し、レポートの作成（または発表）をすることによって研究の手順を体感してもらう。

これらを行うことによって、卒論作成時に困らなくなることを目指す。

授業計画

第 1 回	ゼミの進め方の説明、発表担当者の決定	第 16 回	仮説の検討 1（調査対象者の決定）
第 2 回	担当教員（古澤）による研究発表発表の仕方の説明	第 17 回	仮説の検討 2
第 3 回	心理学論文の発表 1	第 18 回	仮説の検討 3
第 4 回	心理学論文の発表 2	第 19 回	質問紙の作成 1
第 5 回	心理学論文の発表 3	第 20 回	質問紙の作成 2
第 6 回	心理学論文の発表 4	第 21 回	質問紙の作成 3
第 7 回	心理学論文の発表 5	第 22 回	質問紙のレイアウト決定
第 8 回	心理学論文の発表 6	第 23 回	質問紙の印刷
第 9 回	心理学論文の発表 7	第 24 回	調査の実施
第 10 回	心理学論文の発表 8	第 25 回	データ入力、データクリーニング
第 11 回	心理学論文の発表 9	第 26 回	データ解析 1
第 12 回	心理学論文の発表 10	第 27 回	データ解析 2
第 13 回	心理学論文の発表 11	第 28 回	データ解析 3
第 14 回	秋期調査のテーマ決め 1	第 29 回	レポートの作成 1
第 15 回	秋期調査のテーマ決め 2	第 30 回	結果発表

到達目標

基礎的な調査であれば、独力でテーマ決定から、レポート作成、発表までの調査のすべての過程を実行できることを目標とする。

履修上の注意

原則として、「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」を履修していることが必要である。これら科目に合格していない場合、ゼミにおける学習も厳しくなる可能性があるため、その点は認識しておいてほしい。

また、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「フィールドワークⅠ・Ⅱ」「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」のうちどれか1科目は履修をすることがゼミにおける学習上必要となる。

予習・復習

論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成したレジュメによって復習をすることが望ましい。

評価方法

発表の仕方を含む授業の参加性（60%）およびレポート（40%）によって評価を行う。

テキスト

特にテキストを指定しない。

授業概要

- ・子どもに関わることがテーマです。特に、教育(いじめ、不登校、学級経営、小1プロブレム、中1ギャップなど)、保育(幼小連携、特別支援、保護者への教育相談など)、福祉(子育て、家庭教育など)。
- ・自分が興味関心のある分野を広げるために、世の中の事象や時事問題についての活字情報を収集する。
- ・教育・保育現場を訪問し、自分の目で子どもを観察し、理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	論文・資料の集め方1	第17回	より詳細な論文、資料の集め方1
第3回	論文・資料の集め方2	第18回	より詳細な論文、資料の集め方2
第4回	論文・資料の集め方3	第19回	フィールドワーク1
第5回	フィールドワーク1	第20回	フィールドワーク2
第6回	フィールドワーク2	第21回	フィールドワーク3
第7回	フィールドワーク3	第22回	各自発表：卒論準備進捗状況報告1
第8回	発表資料の作成方法1	第23回	各自発表：卒論準備進捗状況報告2
第9回	発表資料の作成方法2	第24回	各自発表：卒論準備進捗状況報告3
第10回	発表資料の作成方法3	第25回	各自発表：卒論準備進捗状況報告4
第11回	中間発表1	第26回	各自発表：卒論準備進捗状況報告5
第12回	中間発表2	第27回	各自発表：卒論準備進捗状況報告6
第13回	中間発表3	第28回	各自発表：卒論準備進捗状況報告7
第14回	中間発表4	第29回	成長点と課題の明確化1
第15回	まとめ	第30回	成長点と課題の明確化2
		第31回	まとめ

到達目標

- ・自分の興味関心があるテーマに関連する文献や資料を収集する力をつける。
- ・文献や資料を繰り返し読み、内容を理解できるようにする。
- ・興味のあるフィールドへ出向き、自分の目で観察し、理解する。
- ・聞き手が分かるようなレジュメ、レポートを作成する力をつけるために、繰り返し行う。

履修上の注意

- ・演習は学生主体で行われるものなので、無断欠席は認めない。全出席するという強い意志を持って参加すること。
- ・心理学概論、心理学研究法、心理統計法、心理学実験、教育心理学、発達心理学を履修済み(履修中)であること。
- ・幼稚園、小学校、中学校といった外部機関への見学実習があります。

予習・復習

- ・授業、発表準備に時間をかけること。
- ・ネットを活用した調査に加えて図書館、教育・保育フィールドへ実際に出向き、興味関心を深めること。

評価方法

出席していることが前提である。遅刻は、3回を1回の欠席と同等に扱う。レジュメの内容(40%)、発表質問・意見・感想(40%)などの発言頻度、まとめの内容(20%)として総合的に評価する。

テキスト

最初の授業で学生と話し合い、決める予定である。その他、参考書については、必要に応じて授業の中で紹介する。

授業概要

臨床心理学の研究課題に基づいて卒業研究を行い、卒業論文を作成するために必要な一連の知識、方法論について指導する。具体的には、研究課題の着想・文献検索および先行研究クリティーク・研究課題の決定・研究実施準備の一連のプロセスについて、実践的に学習する。最終的に、実行可能な研究計画案を作成することを目標として指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方等説明）	第16回	研究課題の策定
第2回	研究課題の着想（個別発表と議論）	第17回	／先行研究クリティークの継続
第3回	文献検索の方法	第18回	（個別発表と議論）
第4回	先行研究クリティーク （個別発表と議論）	第19回	研究課題の策定 ／先行研究クリティークの継続② （前回発表時議論を踏まえた 個別発表と議論）
第5回		第20回	
第6回		第21回	
第7回	先行研究クリティーク② （前回発表後の継続結果について個 別発表と議論）	第22回	研究課題の策定 ／先行研究クリティークの継続③ （前回発表時議論を踏まえた 個別発表と議論）
第8回		第23回	
第9回		第24回	
第10回	先行研究クリティーク③ （前回発表後の継続結果について個 別発表と議論）	第25回	研究課題の決定 （個別発表と議論）
第11回		第26回	
第12回		第27回	
第13回	先行研究クリティーク④ （前回発表後の継続結果について個 別発表と議論）	第28回	研究計画の発表 （個別発表と議論）
第14回		第29回	
第15回		第30回	

到達目標

- 臨床心理学の研究方法に基づき、研究論文を作成する基礎的な知識と方法論を身につける。
- 実行可能な研究計画案を作成する。

履修上の注意

意欲、自主性を強く求める。授業外の学習を自ら意欲的に進め、疑問点は教員に積極的に質問する姿勢を期待する。

予習・復習

授業前には各作業段階に応じた課題学習と発表準備を行い、授業後にも疑問点の復習を必ず行うこと。

評価方法

授業への取り組み（意欲、自主性）30%、個別発表時内容 40%、研究計画の完成度 30%によって評価する。

テキスト

使用しない。必要な文献を適宜案内する。